

昭和の地名をたずねて(10)

大河原

大きな広い原野か！

大河原は、霊峰赤城山の北西麓に位置し、広大な大地に開かれた集落である。諸説あるが、地勢学で赤城山の裾野の長さは富士山に続く上位である。

今の赤城原の各集落(大河原、中野、追分、赤谷、赤城原)は、江戸時代、十四ヶ村入会の秣場まぐさばとなっていた。灰や堆肥、下肥を肥料の主とした時代、秣場の持つ役割は限りなく大きかった。時に、肥料、家畜の飼料、住居の燃料、また、住居の屋根として活用され、秣場が人々の暮らしを支えていた。

秣場の入会を巡っては度々争いが生じていた。しかし、明治九年以後の地租改正によってほとんどの秣場は御料地に編入された。やがて、開墾かいはん払下げ運動が行われる中、糸井では明治二十年、糸井養林会社が部分林地として御料地を借り受け、養村開墾を始めた。

これに先立つ明治十年、昔からの水不足を解決しようと、糸井、貝野瀬、生越、多那が力を合わせ大沼から水をひき、赤城原の開墾を進めようとした。こ

れは、並々ならぬ大事業であったが昭和九年、赤城用水として実を結ぶ結果となった。

さて、当時の養林地は防火線を通し、カヤの生育のため、たびたび野火をつけていた。そこで、この地帯に住む野火番を募り、防火線を開墾していった。このような家が大河原や赤谷に四五軒あり、明治四十年頃から五軒、十軒と徐々に増え、新しい村づくりが始まっていった。

そして、先人の方々は艱難かんなん辛苦くしんを乗り越え、たゆまない開拓魂を持って原野を開墾したのである。今では広々とした畑が連なり関東の小北海道を思わせ、「やさしい王国昭和村」として全国的に知られる農産地となっている。なおかつ、上越連峰の山並みもはっきりと見え、未来に向かって勉強に励む大河原小学校もあり、活気を呈している。



▲大河原小学校

協力 沼田市立図書館等

昭和村ボランティアガイドの会

会長 倉澤 俊雄



地域包括支援センターだより

昭和村地域包括支援センターのご案内

高齢者の総合相談窓口です

地域で暮らす高齢者のみなさんがいつまでも住み慣れた地域で生活ができるよう、介護・福祉・健康・医療など、さまざまな面から総合的に支援します。

例えば・・・

足腰が弱くなってきた

もの忘れが多くなってきた



介護サービスについて知りたい

お年寄りを怒鳴る声がある

気になること、困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

昭和村地域包括支援センター

住 所：昭和村大字糸井6 2 4番地

昭和村社会福祉協議会(昭和村ふれあい館内)

電話番号：30-2121

営業日：月～金曜日(祝日と年末年始を除く)

営業時間：午前8時15分から午後5時15分まで

職員体制

センター長(介護支援専門員)

副センター長(社会福祉士)

保健師

関上 俊行

林 学

後藤 碧



問合せ 地域包括支援センター ☎ 30-2121

